



みっつの氣

【げん氣・やる氣・がまんの氣】



唐津市立打上小学校

学校だより 特別号

2020年8月26日(水)

文責 校長：宮崎 恵司

学校目標『学ぶ力とかかわる力を持ち たくましく生きる児童の育成』



平和集会 特集号



昨日、平和集会を実施しました。例年であれば、8月の登校日に体育館で実施していましたが、今年はコロナの影響で登校日がなくなったことを受けて、この日となりました。また、密をさけるために少人数のブロックに分けて放送による集会としました。

子どもたちは、事前に平和学習として長崎平和推進協会からお借りしていた平和ビデオ（1年～4年：長崎の子馬、5年～6年：見上げればひまわり、6年：ヒロシマ・ナガサキ）を見て感想文を書いていました。

昨日の集会の中で、各学年の代表者が感想文を発表してくれたので紹介します。

【1年 いのうえ とき】

ながさきのまちがぼろぼろになってかわいそうだった。

げんしばくだんのせいで、ながさきのみんながしんでかわいそうだった。

もうぜったいにせんそうはあってほしくないです。

いまからは、ずっとへいわがいいです。



【2年 松尾 ちさき】

わたしがこの『ながさきの子うま』を見ていちばん心にのこったばめんは、子うまのおかあさんが「わたしのことはいいから、早くにげなさい。」と強い言い方で言ったところです。きっと、子うまのおかあさんは、子うまの前でじぶんがしんでいくところを見せたくなかったからだと思いました。

もしも、今もせんそうがあっていたら、よごれた水をのんでいたかもしれません。たべものもないかもしれません。おとうさんやおかあさんもいなくなって、お姉ちゃんと妹といっしょに三人でくらしているだろうし、もしかしたら、一人でせいかつをしているかもしれません。

せんそうは、たくさんのどうぶつもたくさんの人もしんでしまいます。やっぱり、せんそうはこわいから、せんそうはしてはいけません。

【3年 吉井 りりこ】

わたしは、せんそうになるとこんなにおそろしいことがおきるなんてはじめてしりました。むかしの人は、こんなくるしみをあじわったなんておどろきました。その中で、なぜせんそうがはじまったのかをぎもんに思いました。

もし、せんそうがはじまらなかったら、たくさんの人の命がなくならないですんだのにと、わたしは考えました。今もほかのくにではせんそうがあると聞いたので、みんながへいわにくらせたらいいなと思いました。

【4年 橋間 ゆうや】

いなさ号という名前の子馬が生まれてすぐに、新がたばくだんが長崎に落とされました。そのばくだんによって、いなさ号のお母さんやいなさ号のかい主たちも全てころされてしまい、とても悲しかったです。ばくだんが落ちる前は、みんな仲良く楽しそうにいらしていたのに、たった一つのばくだんで、何千万という人や動物たちの命がぎせいになってしまいひどいと思いました。

なぜ、人は戦争をするのかぼくにはわかりません。

だけど、戦争をすることで、悲しい思いをする人がたくさん増えること、幸せな毎日がこわくて不安な毎日になってしまうことはわかります。

だから、このようなことが二度と起きないように、みんなが努力をしていくべきだと思います。ぼくは、相手を思いやる気持ちを大切にしていきたいと思います。

【5年 坂本 千優】

このビデオ『見上げればヒマワリ』を見て、戦そうがどれだけおそろしく、どれだけ人をきずつけたかをあらためて考えることができました。長さきで原ばくで約14万人ものが亡くなってしまったことを何度聞いてもとてもかなしくなってきます。原ばくを落とす人たちは、平和をしらないのかなと思う時もあります。「戦争に何の意味があるの。」とぼくは思います。

渡辺千恵子さんは、その苦しみにたえたので、ぼくは、あらためて人の命は何よりも大事なことを知りました。

もうこの世で戦そうがきえることを心から願います。

そして、命の大切さについて、世界中に広まるといいなと思います。



【6年 平河 芹菜】

平和についての映像を観ました。どちらも、原爆の恐ろしさを物語っていました。私は、1kg未満にも及ばない重さの核の量の原爆が長崎で7万人、広島で14万人の死者を出したことに驚愕しました。原爆で一しゅんにして奪われたたくさんの命、助かったのに放射能の後遺症で次々に亡くなっていく命、たった一つの大切な命なのに、その命を奪った原爆は、本当にいけない物だと改めて心に焼きつきました。

でも、私達は、本当の原爆の恐ろしさを知りません。だから、私達は被爆者の方々から話を聞き、それを未来の子供達に伝えていくのです。怖いけど、夢に出てくるかもしれないけど、でも、これは本当にあったことだから、唯一の被爆国として、二度とあってはならない核兵器はい絶を被爆者や亡くなった人達の思いをのせて訴えていきたいと思いました。

千恵子さんのように大けがをして、生きる意味を分からなくなってしまっても、自分には何か出来ることがあるという思いを持っていれば、不可能なことなんてないんだと思いました。だから、これからの人生挫折してもあきらめないで頑張っていきたいです。

こどもたちは、この集会を通して平和の尊さを学び、
そのために自分に何ができるかを考えていました。
ご家庭でも話題にしてみてください。





